

令和3年8月20日（金）

全国知事会 新型コロナウイルス緊急対策本部（第27回）における丸山知事 発言（発言要旨）

1. オリンピックの評価と感染拡大防止への国民の理解・協力について

ワクチンの接種については、1ヶ月後、2ヶ月後の対策に資するものではあるが、残念ながら、当面の感染者増に（対する）効果はない。

そして、ロックダウンについても、国会が開いていない現状では（必要な法整備等ができないため）、今の感染拡大に対応できる対策ではないと思っている。

全国一斉の緊急事態宣言（を発令すべき）という話もあるが、本県の場合は（感染拡大の主な要因は）他県との行き来による感染の流入であるため、飲食等への制限を中心とした（現時点での基本的対処方針に基づく）措置については（対応策として）ピントがずれており、島根県としては、今の段階では、そういったもの（緊急事態宣言）を求める状況ではないため、（全国に）一律に適用することについては、反対である。

私は、強いメッセージとか強い規制といったことの前には、まず、なぜ今、国民に政府や我々行政サイドの要請を聞き入れてもらえない状況になっているかということ、真摯に振り返るべきだと思っている。

東京オリンピックの開催自体は、国内外のアスリートの活躍により、国民の評価は高く、「開催すべきだった」という評価が多数であり、（そこは）私も同意する。

ただし、国民が求めていたのは、オリンピックの開催と、感染拡大防止を両立することであり、残念ながら、（現在の状況を見ると）それが達成できていない（できなかった）ということであって、大会の開催自体の評価と、全体の評価がずれてはいけない。

つまり、二つの両立ができなかったということ、行政の側できちんとした反省や振り返りをして、その上で、国民に対して協力を求めていくということを経ない限りは、如何に強いメッセージを出そうが、如何に強い規制を作ろうが、協力を得られないのではないかと危惧している。

（今後開催される）パラリンピックについても、I O CやI P Cの会長から良かったと言ってもらえることが成功ではなく、国民から、良かったと、全体として（評価）いただけることが成功だという認識の下で、臨んでいただきたいと思う。

2. 国の補正予算の編成時期について

経済対策について、様々な要望事項を取りまとめているが、いずれも大型の補正予算が必要になる内容ではないかと思う。

加えて、衆議院の任期満了を控えている中、（今後、解散総選挙があることを前提とした）政治日程の中で、経済対策をいつ組んで、補正予算の編成作業をいつして、そして、国会日程をどうするかということを検討する必要があり、補正等の編成時期を（政治日程に組み込んで）具体的に考えていただかないといけないのではないかと思っている。

衆議院の解散総選挙がずっと先に延びて、その後に補正予算の経済対策の編成等に入ることになれば、早期の対策、補正予算の編成が、全く以ておぼつかないことになるので、是非とも（解散総選挙の日程を、今後の）政治スケジュールの中に組み込んでいただくということも、早期の（補正予算）編成のために欠かせないことだと思う。